

平成 30 年度授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

校長・准校長サイン

名前

学校名 府立阿倍野高等学校

名前

1 学校教育目標（めざす生徒像）

- ・確かな学力とキャリア形成
- ・主体的に考え行動する力
- ・知徳体に備わった豊かな人間性

2 平成 30 年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」

\*WG（ワーキンググループ）を中心として、生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくりをする。

②テーマ設定理由

WG 会議において、生徒の長所（知識習得が得意、指示に応える）を生かし、短所（間違いを恐れる、受け身、表現力に乏しい）を改善するために設定した。また、中心となる組織を明確にした。

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- (ア) 設定した学校教育目標の確認
- (イ) 各教科の具体的な手法の検討
- (ウ) WG による実践、評価
- (エ) 振り返り、次年度に向けて

②具体的な取組み（ア～エは①に対応）

- (ア) 7月5日実施の第1回全体研修会において、WGメンバーの紹介と、目標設定の経緯と目標の周知をした。
- (イ) 同研修会で5教科（国社数理英）に分かれ、ブレインストーミングとKJ法を用いて、目標達成のための具体的な手法について検討した。
- (ウ) 全体研修会での話し合いをもとに、教育目標を意識した授業づくりを実践。WGより3名の先生による研修授業を実施。年2回実施の授業アンケートの質問項目7を「先生は生徒の意見を引き出せるよう、授業を工夫している」に変更した。また、目標の達成度を測るために、WG独自の授業アンケートを作成した。取組みについては、パッケージ研修通信を7号まで発行し、全教員に配布し、周知に努めた。

(エ) 2月19日実施の第2回全体研修会において、今年度の振り返りと評価、次年度への提言を行った。

### ③取組みの検証方法

- ・授業アンケートに項目を追加  
(質問項目「先生は生徒の意見を引き出せるよう、授業を工夫している」)
- ・WGアンケート  
質問項目は3 取組みの検証(2)生徒の変容②WGアンケートよりを参照

## 3 取組みの検証

### (1) 校内研究の成果

- ①全体研修会の実施が、多くの教員に教育目標を意識してもらうきっかけになった。新学習指導要領について、研修内容に取り上げ、今年度の取組みが、新学習指導要領と関連があることが確認できた。
- ②WGが率先して、授業改善に取り組むことで、他の教員の意識が高まり、研究授業などの授業見学の数が増えた。パッケージ研修通信を読んでもくれた先生から、パッケージ研修の取組みを応援する声も聞こえた。

### (2) 生徒の変容(授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか)

#### ①授業アンケート(4段階で評価)

WGの教員(A先生、B先生、C先生、D先生)と学校平均  
質問項目7「先生は生徒の意見を引き出せるよう、授業を工夫している」より

	A先生	B先生	C先生	D先生	学校平均
7月	3.45	3.42	3.52	3.11	3.08
12月	3.49	3.40	3.53	3.05	3.09

- ・WGメンバーは目標設定した5月以降、先行して授業改善に取り組んでいたため、7月実施時点ですでに校内平均を大きく上回る高評価を得ている。
- ・WGメンバーは、11月実施分で大きな改善は見られなかったが、高い水準で生徒の支持を受けている。

#### ②WGアンケートより(3科目、のべ9クラス(360人)からの回答)

4 あてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない	割合(%)				平均
	4	3	2	1	
1. 授業では自分の考えをじっくり考える機会がある。	66.0	30.9	2.8	0.3	3.63
2. 授業では自分の意見を文章で表現する機会がある。	46.2	40.3	13.3	0.3	3.32
3. 授業では自分の意見を発言する機会がある。	54.9	37.9	6.7	0.5	3.47
4. 授業では他者と話し合う機会がある。	83.5	14.7	1.8	0.0	3.82
5. 授業で自分の考えをじっくり考えることができるようになった。	49.7	41.0	7.7	1.5	3.39
6. 授業で自分の意見が文章で書けるようになった。	24.4	49.6	23.4	2.6	2.96

7. 授業で自分の意見が発言できるようになった。	31.9	43.2	22.1	2.8	3.04
8. 授業では他者と話し合いができるようになった。	61.2	32.6	5.4	0.8	3.54

「表現する機会」については3.32～3.82と高評価、「表現できるようになった」については2.96～3.54、「文章で書けるようになった」については最低の2.96となった。表現する機会はあるが、力がついた生徒自身の実感は乏しい。「他者と話し合いができるようになった」については、3または4と回答する生徒が93.8%と高水準である。

(自由記載欄)

- 友達と考える時間が増えた
- 授業の雰囲気的に発言しやすい
- 他の人と意見の交流ができるのが良い
- 1人1人あてられるから、発言の機会が増えた
- 班活動は眠たくなならないし、素直に発言できる
- 班員と話し合っ、自分の意見がよりよいものになった
- わからないことをすぐペアにきけるのがよい
- 討論大会で積極的に質問できるようになった
- あまり話さない人と話せるようになった
- あまり話さない人とペアだと、話しにくい

### (3) 教員の変容(授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか)

目標設定当初、受け身の生徒がこれだけ取り組んでくれるとは想像していなかった教員がほとんどであった。WGのほとんどの教員が、ペア学習や、グループ学習を実施し、中にはディベートや考査問題例の作成を生徒に課す教員もあり、生徒に能動的な活動をさせることに成功している。生徒はアンケート結果からわかるように、これらの取り組みを肯定的にとらえており、WGの教員側も取り組みを継続していくことに意欲的である。

WGでない先生方も今年度の取り組みの関心が高く、例年になく研究授業の参加率であった。全体研修会の参加率も、他の校内研修と比較して、高い参加率であった。

## 4 今後に向けて

### (1) 今年度の課題

- WG中心の取り組みをどのように拡大していくか
- この取り組みをどのように進路実績につなげていくか(学校運営協議会での質問)
- パッケージ研修終了後、次年度以降の校内体制
- 教科間や若手、ベテランとの垣根
- 継続性のある評価

## (2) 次年度に向けて

今年度は実施母体を WG に限定して行ってきた。この取り組みが周りに広がりを見せてくれることに期待する。また、生徒においては、「表現する機会」を設けることには成功したが「表現する力」がついた実感は乏しく、単年度で身につく力でもないことから、取り組みを継続し、評価していく必要がある。次年度以降も WG に代わる組織を発足させ、継続的に授業改善をしていく。その際、カリキュラム・マネジメントリーダーの活用や、組織に属する教員が負担に感じない工夫が必要である。

平成 30 年度 校内研修年間実施報告

1 平成 30 年度の目標(テーマ・主題)

WG を中心として、生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	6		職員会議でパッケージ研修実施を周知
	23	準備会議 ・メンバー確認 ・今年度の目標や活動について	
	26		職員会議で全体研修会の案内
5	29	第 1 回会議 ・新学習指導要領、大学入試改革学習会 ・本校の課題の把握	
6	14	第 2 回会議 ・パッケージ研修の趣旨説明 (指導主事) ・授業改善目標設定 ・校内全体研修会の企画	
7	5		第 1 回校内全体研修会
	9		第 1 回授業アンケート
	10	学校運営協議会にて全体研修会報告	
9	25	第 3 回会議 公開授業週間で用いる授業見学シートの改定、WG メンバーの授業改善の実態把握、WG 授業アンケートの作成	
	27	指導主事による授業見学 (理科)	
11	6		研究授業 (国語・英語)
	8	学校運営協議会にて中間報告	
	22		研究授業・研究協議 (理科)
	下旬	WG アンケート・集計・分析	
12	11		第 2 回授業アンケート
2	14	学校運営協議会で最終報告	
	19	次年度に向けて	第 2 回全体研修会 (総括)

平成 31 年度 校内研修年間計画

1 平成 31 年度の目標(テーマ・主題)

生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり (継続)  
ただし、拡大、発展させる

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	1	カリキュラム・マネジメントリーダー選出	
	5		職員会議で周知
	15	第 1 回ミーティング 委員会メンバー選出 今年度の目標や活動について 昨年度の課題をふまえて	
5	27	第 2 回ミーティング 校内年間計画の作成 全体研修会の企画	
7	5		第 1 回全体研修会
	12	第 1 回授業アンケート	
9	24	第 3 回ミーティング 実践事例の共有	
11		研究授業・拡大研究協議	
12	17	第 2 回授業アンケート	
1	27	第 4 回ミーティング アンケート分析・振り返り	
2	10	第 5 回ミーティング 研究のまとめ作成	
	17		第 2 回全体研修会 研究のまとめ配布
3	16	第 6 回ミーティング 次年度にむけて	